

海老名市立杉久保小学校 学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第1回)

- 1 日時 令和6年5月14日(火) 15:00～16:30
- 2 場所 海老名市立杉久保小学校 校長室
- 3 出席委員 伊藤健三委員長、川口竜史委員、山本敏昭委員、金子由美子委員
前田正晴委員、山室修次委員、坂野千幸委員、坂田美帆委員
三橋正人委員、東優也委員

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

(2) 委嘱状交付

4月より新規委員の山本委員へ委嘱状交付。

(3) 学校の様子について

坂野校長より

- ・令和6年度学校教育目標について
学校教育目標は中学校区で共通、めざす学校像は「インクルーシブ」を入れて今年度から新たなものに。
- ・令和5年度学校教育活動アンケート
昨年と肯定的回答が変わらず9割以上ある。
子どもの回答率91%、世帯数は61%回答。グーグルフォームから返信をもらう方法で。
- ・令和6年度の本校の取組について
 - 県・委託事業
人権教育推進研究校
外国語教育研究指定校
スペシャルサポートルーム活用推進研究校
結-EN学級アセスメント研究会
ダスキンスクール衛星清掃パッケージ導入研究
学校目標である「豊かな人間性・確かな学力・健やかな心身」の育成の3つが網羅されている。
 - 学校独自の取組
 - ・杉の子タイムについては、昨年1月から実施したため、スムーズにスタートできている。子どもたちにどうして15分のモジュール学習をするのか、パワーポイ

ントの資料を使って丁寧に説明を行った。

・「こどもの森」学

学校独自のこどもの森を使って、教育課程の中に入れて学習を進めていく。

伊藤委員長：担当の先生がいるのか。

坂野校長：今年度は、鈴木先生が担当。こどもの森を使って「遊ぶ・学ぶ・広がる」などホームページに掲載されている活用例などを参考に教職員に周知している。

（４）【協議】杉久保小学校で育てたい子ども像について

伊藤委員長：本物を知らない。メディアの発達により、見ただけで体験したかのように錯覚している児童もいるのでは。六感を使って体験や年齢相応の体験が大切。低学年は土に触る経験をした児童と人工物の中で育った児童では大人になったときに違いが出る。人工物の中で育った児童は人のせいにするが、自然と触れ合った児童は人のせいにしないと養老孟子が言っていた。

山本委員：心を大きく広く育てるには、どうしたらいいのだろうか。

前田委員：挨拶が特に高学年は減ったのだろうか。

金子委員：学年は関係なく、する子はするし、しない子はしない傾向がある。ハイタッチを元気にみなさんやってくれます。

（５）意見交換

前田委員：ＰＴＡの在り方は任意で行っている学校もあるがどのようにとらえているか。

坂野校長：新入学説明会で、ＰＴＡから任意ではあるが全員が入っていることを伝えた。

山本委員：ＰＴＡに対して否定的だったが、ボランティアで参加してやってみてたら子どもたちのために裏方の仕事をしてくれていることがよくわかった。

山本委員：ワイワイフェスタを子ども主体でできないものか。

坂野校長：教育課程で決めているところもあるので難しい。50周年で昨年のわいわいフェスタは本当に盛り上がってよかった。やぐらを組んで子どもたちが大喜びだった。

金子委員：昨年ほど大々的にできなかったとしても、今年も子どもたちに喜ぶようなことをしたい。

前田委員：地域のお祭りへの参加とかどうか。

坂野校長：コロナ前に少しずつ戻っていったらと考えている。

（６）その他

次回の、学校運営協議会は、令和6年9月26日（木）に開催予定。